

企業局経営戦略の進捗状況（令和5年度決算確定値）

1 令和5年度投資・財政計画の実績評価（令和5年度計画値と実績値の比較による評価）

（1）水道用水供給事業

- 供給水量の微増が続くなど、計画約13億円に対し、約15億円の純利益を確保している。今後、人口の減少は進むものの、水道普及率の向上や市町村等における自己水源から県水への転換による供給水量の増加により、継続して純利益を確保していく。
- 借入金残高は、新規借入金の抑制に努めており、約404億円と、計画約478億円に対し、約74億円下回っている。
- 純利益を確保しながら、浄水場の更新、管路の耐震化などを行っており、経営状況は良好である。

（2）工業用水道事業

- ユーザー企業との契約水量を一定量確保するなど、計画約28億円に対し、約26億円の純利益を確保している。
- 借入金残高は、新規借入金の抑制に努めており、約347億円と、計画約427億円に対し、約80億円下回っている。
- 純利益を確保しながら、浄水場の更新、管路の耐震化などを行っており、経営状況は良好である。

（3）地域振興事業

- 主な支出は、稲敷土地造成事業及びつくばみらい福岡地区土地造成事業の土地売却原価約133億9,700万円であり、その他、負担金や一般管理費が発生している。一方、主な収入は稲敷土地造成事業及びつくばみらい福岡地区土地造成事業の土地売却収益約203億5,100万円であり、全体として収入が支出を上回り約69億1,600万円の純利益となった。
- 坂東山地区土地造成事業とひたちなか地区土地造成事業において、合計51億5,920万円の企業債借入を行い、借入金残高は119億7,920万円となった。各造成事業の企業債は、分譲収入により返済する見込みである。
- 土地造成事業においては、主に土地売却収益の増減により収支が変動するが、欠損金が発生する場合は過年度の未処分利益剰余金で補填していく。また、立地推進部や地元市等と緊密に連携し、事業費の縮減に努めるとともに、早期分譲により利益を確保していく。

2 数値目標の達成状況

（1）水道用水供給事業

- 総収益対総費用率は、供給水量の微増が続き100%以上を達成している。
- 施設の改築・更新は、新浄水場を廃止するために事業費ベースでの進捗は低いが、計画どおり5浄水場（霞ヶ浦、阿見、関城、水戸、涸沼川）について完了又は事業を進めている。
- 管路耐震化は、整備費用の高騰や布設位置の見直しなどが発生しているが、着実に耐震化を進めている。

(2) 工業用水道事業

- 総収益対総費用率は、引き続き 100%以上を達成している。
- 施設の改築・更新は、新治浄水場を廃止するために事業費ベースでの進捗は低い
が、計画どおり 6 浄水場（霞ヶ浦、阿見、関城、水戸、涸沼川、那珂川）について
完了又は事業を進めている。
- 管路耐震化は、整備費用の高騰や布設位置の見直しなどが発生しているが、着実に耐震化を進めている。

(3) 地域振興事業

- これまで企業局が造成した阿見東部工業団地、江戸崎工業団地、つくば明野北部
(田宿地区)工業団地の全てにおいて企業立地率 100%を達成している。(ただし、
阿見東部工業団地については、一部企業がリース契約により立地。今後、土地の分
譲を進めていく。)

3 その他の諸課題の取組状況

(1) 人材の確保・育成

- 技術系職員については、関係各課と調整し、毎年度必要な人員の確保に努めてい
る。
- 技術の継承や知識習得のため、若手職員向けの技術研修を計画的に 4 回開催し、
人材の育成に積極的に取り組んだ。また、運転管理を委託している(公財)茨城県開
発公社と管路点検及び浄水場巡視点検のデジタル化に取組み、技術力向上に努め
た。
- 運転管理への A I 導入や浄水場の集中監視などデジタル技術の活用により、技術
力の補完を図ることとしている。

(2) コストダウンの取組み

- 浄水場で使用する薬品等や高額な固定資産(備品)の購入にあたっては、本局で
一括して一般競争入札を実施し、コストダウンを図っている。また、消耗品等につ
いても、随意契約よりも競争性・公平性・透明性が確保されるオープンカウンター
(公募型見積り合わせ)方式で実施し、コストダウンを図っている。
- 動力費を削減するため、ろ過池等の洗浄等の夜間実施、取水ポンプ・送水ポンプ
のピークシフト(昼間を減らし夜間を増やす)などを実施し、割安な夜間電力の活
用に努めている。

(3) 水道事業の経営基盤強化に向けた広域化等の推進

- 令和 2 年 4 月に統合した県南西広域水道用水供給事業において、旧県西広域の新
たな水需要に対応するため、余剰水が発生している旧県南広域からの水融通を行う
連絡管(2 区間)の整備を進めた。
- 自己水源から県水道用水への転換を行った受水団体(4 団体)に対し、増量した
水量の基本料金の 2 分の 1 を減免することにより、県水転換を促進し、供給水量増
による経営基盤強化を図った。
- 水道加入促進の取組を実施する受水団体(27 団体)に対し、増加した使用水量
見合いの使用料金の 2 分の 1 を減免することにより、水道普及率を高め、供給水量
増による経営基盤強化を図った。

(4) デジタル化の推進と新技術の導入

- 令和3年9月に「企業局DX推進計画」を策定し、浄水場維持管理費用の削減や、維持管理の省力化を図るため、デジタル技術の積極的な導入を推進することとした。令和5年度は、鹿島工業用水道へのスマートメーター運用開始、浄水場運転管理へのAI導入に向けた調査などにより、運転管理の省力化を図った。
- 霞ヶ浦浄水場で進めている「新たな浄水処理技術の導入」については、オゾン接触池の築造工事が完成し、施工中の電気・機械設備工事は令和6年上半期に完成見込みであり、試運転等を経て令和6年中の供用開始を予定している。

令和5年度 投資・財政計画実績

水道用水供給事業

(百万円)

項目		R 5 計画(A)	R 5 実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	18,011	18,780	769	104.3%
	料金収入	15,896	16,198	302	101.9%
	他会計補助	121	359	238	296.7%
	長期前受金戻入等	1,994	2,223	229	111.5%
	費用	16,749	17,287	538	103.2%
	維持管理費等	7,949	8,885	936	111.8%
	減価償却費	8,139	7,897	△ 242	97.0%
	支払利息	661	505	△ 156	76.4%
	純利益	1,261	1,493	232	118.4%
利益処分（減債・建設改良積立）		1,262	4,502	3,240	356.7%
繰越利益剰余金		0	0	0	
資本的 収 支	収入	2,957	3,871	914	130.9%
	国庫補助金	1,387	746	△ 641	53.8%
	企業債	528	1,727	1,199	327.1%
	他会計補助金等	871	1,279	408	146.8%
	他会計借入金	171	119	△ 52	69.6%
	支出	11,222	12,532	1,310	111.7%
	建設改良費	8,276	8,697	421	105.1%
	償還金等	2,946	3,835	889	130.2%
差引	△ 8,265	△ 8,661	△ 396	104.8%	
借入金残高		47,763	40,363	△ 7,400	84.5%
うち企業債残高		42,253	36,502	△ 5,751	86.4%

令和5年度 投資・財政計画実績

工業用水道事業

(百万円)

項目		R 5 計画(A)	R 5 実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	12,686	12,807	121	101.0%
	料金収入	11,365	10,113	△ 1,252	89.0%
	他会計補助	0	318	318	
	長期前受金戻入等	1,321	2,376	1,055	179.9%
	費用	9,936	10,245	309	103.1%
	維持管理費等	3,786	4,779	993	126.2%
	減価償却費	5,834	5,326	△ 508	91.3%
支払利息	316	140	△ 176	44.3%	
純利益	2,750	2,562	△ 188	93.2%	
利益処分（減債・建設改良積立）		2,750	2,562	△ 188	93.2%
繰越利益剰余金		0	0	0	
資本的 収 支	収入	1,772	2,624	852	148.1%
	国庫補助金	72	702	630	975.0%
	企業債	1,700	985	△ 715	57.9%
	他会計借入金	0	0	0	
	その他	0	937	937	
	支出	8,935	5,343	△ 3,592	59.8%
	建設改良費	6,425	3,193	△ 3,232	49.7%
償還金等	2,510	2,150	△ 360	85.7%	
差引	△ 7,163	△ 2,719	4,444	38.0%	
借入金残高		42,657	35,260	△ 7,397	82.7%
うち企業債残高		23,553	16,158	△ 7,395	68.6%

令和5年度 投資・財政計画実績

地域振興事業

(単位：百万円)

項目		R 5 計画(A)	R 5 実績(B)	差引(B)-(A)	増減率
収益的 収 支	収益	76	20,404	20,328	26847.4%
	土地リース収入等	76	53	△ 23	69.7%
	分譲収入	0	20,351	20,351	
	費用	51	13,488	13,437	26447.1%
	維持管理費等	50	91	41	182.0%
	土地売却原価	0	13,397	13,397	
	支払利息	1	0	△ 1	0.0%
純利益	25	6,916	6,891	27664.0%	
利益処分（土地造成積立等）		25	6,024	5,999	24096.0%
繰越利益剰余金		0	732	732	
資本的 収 支	収入	0	5,736	5,736	
	企業債等	0	5,736	5,736	
	支出	0	17,267	17,267	
	土地造成費	0	11,867	11,867	
	償還金等	0	5,400	5,400	
差引		0	△ 11,531	△ 11,531	
借入金残高		1,500	13,279	11,779	885.3%
うち企業債残高		0	11,979	11,979	

経営戦略における数値目標の令和5年度実績値

1 水道用水供給事業

(1) 数値目標

【基本目標1】 計画的かつ効率的な経営の推進

【評価の凡例】

◎ R6までに確実に達成

○ R6までに達成の見込み

△ R6までに達成できない可能性がある

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)	評価
1	総収益対総費用率 (%)	費用が収益によってどの程度賄われているかを示す	125.6	120.2	118.2	114.3	121.2	117.9	110.5	108.6	毎年100以上	◎ 総収益で総費用を賄えている状況にある。今後、人口の減少が進むものの、水道普及率の向上や施設最適配置を踏まえた広域化事業により、継続して目標値の達成が見込まれる。
2	営業収益対営業費用比率 (%)	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示す	117.6	110.9	109.2	109.4	110.4	108.2	100.5	98.0	毎年100以上	△ 動力費の高騰で営業費用が増加したことにより営業収益で営業費用を賄えていない状況にあるものの、広域化事業による効率化により今後は継続して達成が見込まれる。
3	借入金残高 (億円)	借入金残高 (負債) の状況	530	515	504	502	468	440	420	404	463	◎ 資金状況をみながら、新規借入金の抑制に努めていることから、年々減少している。引き続き、借入金の抑制に努めることにより、目標値は達成できると見込まれる。
4	粉末活性炭使用量 (t)	オゾン処理導入による使用量削減	270	399	300	299	354	266	230	280	100	△ 水海道浄水場で消毒副生成物 (トリハロメタン) や有機物質 (2-メチルイソボルネオール・ジェオスミン) の検出により、粉炭の使用量が増加した。
5	粒状活性炭の再生量 (m ³) [霞ヶ浦浄水場]	吸着活性炭から生物活性炭に移行することによる活性炭寿命の延命	3,400	2,870	3,178	2,870	3,588	4,118	3,935	3,375	1,200	△ 新設の粒状活性炭ろ過池へ活性炭の移設が完了したため、令和5年度は再生量が減少した。令和6年11月よりオゾンAOP施設が稼働したため、活性炭の再生量はさらに減少する見込み。
6	水道普及率 (%)	水道利用者の増	94.0	94.4	94.6	94.7	94.9	95.1	95.3	95.3	95.4	○ 水道普及率は、着実に向上しており、このまま推移すれば目標を達成できる見込み。 ※R5実績値は、R5年3月末時点の水道普及率として公表された値

【基本目標2】 安全で安定した水の供給

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)	評価
7	施設の改築・更新の進捗状況 (%) 【事業費ベース】	機能維持に関する建設改良投資の進捗状況 (施設更新事業) 【上工水】	27.3 (30.6)	35.7	43.9	53.7	54.6	57.9	63.7	70.7	100	○ 水道の広域化 (施設の最適化) の検討に伴い新浄水場の更新は先送りしているが、他の浄水場については計画に基づき事業が進んでいる。
		策定時 (H25) 事業費 (百万円) 47,021 執行額 (百万円) 3,066 進捗率 (%) 6.5	47,021 12,834 27.3	47,021 16,780 35.7	47,021 20,649 43.9	47,021 25,229 53.7	47,021 25,687 54.6	47,021 27,248 57.9	47,021 29,931 63.7	47,021 33,254 70.7	R5計画値 47,021 33,461 71.2	○ R5実績額 C=3,322,886千円 (霞ヶ浦オゾン、瀬沼川薬注、阿見薬注、鹿島CC) ※最終補正額 R5当初予算C=3,529,828千円 (")
8	建築物 (取水ポンプ棟、送配水ポンプ棟など) の耐震補強の進捗状況 (%) 【事業費ベース】	S56以前に整備された建築建屋 (常時無人) の耐震化の進捗状況 (第2次耐震化計画) 【上工水】	13.1	20.4	27.3	30.1	32.6	35.0	※100	※100	100	◎ 耐震補強計画の見直し等により工事費の低減を図っており、事業費ベースの進捗率は低いものの、令和3年度までに対象9棟の耐震化が完了できた。
		策定時 (H25) 棟数 (全9棟) 0棟 事業費 (百万円) 715 執行額 (百万円) 2 進捗率 (%) 0.2	1棟 715 94 13.1	3棟 715 146 20.4	4棟 715 195 27.3	6棟 715 215 30.1	6棟 715 233 32.6	9棟 715 250 35.0	棟数ベースではR3に目標達成済	棟数ベースではR3に目標達成済	R5計画値 0	◎ R3実績額 C=17,215千円 (鰐川耐震補強工事) R3当初予算C=37,851千円 (")
9	管路の漏水事故発生率 (件/100km)	管路更新や適切な機能保全工事による安定した水の供給 【上工水】	1.2	1.1	0.9	0.5	1.3	1.1	0.8	0.9	0.5	○ 小規模な漏水が主であり、老朽化が進む中で発生率は横ばい程度に抑えられている。引き続き、管路の更新等により漏水事故発生率の抑制を図る。
		策定時 (H25) 管路総延長 (km) 1,330 漏水事故発生件数 (件) 13 漏水事故発生率 (件/100km) 1.0%	1,330 16 1.2	1,330 14 1.1	1,330 12 0.9	1,330 7 0.5	1,330 17 1.3	1,330 14 1.1	1,330 10 0.8	1,330 12 0.9	R5計画値 1,330 — —	○ 同上
10	管路耐震化率 (%) 【管路延長ベース】	管路耐震化の進捗状況	61.7	62.4	63.6	64.7	65.4	65.9	66.3	66.8	74.8 (74.4)	△ 整備費用の高騰や布設位置の見直しなどにより、計画に対する進捗率の伸びは鈍いものの、着実に耐震化が図られている。 ※目標値 () 書きは旧目標
		策定時 (H25) 管路総延長 (km) 773.9 整備済み (km) 436.6 進捗率 (%) 56.4	773.9 477.4 61.7	773.9 483.1 62.4	773.9 491.9 63.6	773.9 500.4 64.7	773.9 506.4 65.4	773.9 509.8 65.9	773.9 513.3 66.3	773.9 516.7 66.8	R5計画値 773.9 562.6 72.7	△ 同上
11	事業間連絡管の整備状況 (%) 【事業費ベース】	広域水道事業間をつなぐ緊急連絡管の整備状況 (第2次耐震化計画)	4.7	11.0	21.2	36.7	56.8	73.1	77.4	80.0	100 ※ R6:L=34.5km	○ 整備費用の高騰や整備計画の見直しなどが発生しているが、概ね計画どおりの進捗が図られている。
		策定時 (H25) 管路延長 (km) 0 管路進捗率 (%) 0.0 事業費 (百万円) 5,205 執行額 (百万円) 0 事業費進捗率 (%) 0.0	1.1 3.3 5,205 245 4.7	2.9 8.8 5,205 570 11.0	6.1 18.5 5,205 1,104 21.2	11.5 34.8 5,205 1,911 36.7	17.8 53.9 5,205 2,956 56.8	21.3 64.5 5,205 3,806 73.1	26.4 80.0 5,205 5,347 77.4	28.1 81.4 6,906 5,541 80.0	R5計画値 29.3 84.9 6,906 6,062 87.8	○ R5実績額 C=194,000千円 (利根~水海道、霞ヶ浦~新治、鹿島~水戸) ※利根~水海道・霞ヶ浦~新治は最終補正額 R5当初予算C=715,300千円 (")

※R3進捗率を最終補正額→実績額ベースに修正 ※全体事業費が増となった

【基本目標3】 利用者サービスと情報発信の充実

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)	評価
12	カビ臭の除去率を高めた水道水の供給（水質基準） 2-MIB、ジェオスミン 10ng/l以下	水道水質の向上	2-MIB値 100%	2-MIB値 100%	2-MIB値 100%	2-MIB値 99%	2-MIB値 98%	2-MIB値 100%	2-MIB値 99%	2-MIB値 100%	2-MIB、ジェオスミンともに 5ng/l以下を 100%達成	○ ※達成率は、5ng/lを超えなかった回数/検査回数 原水水質の状況に大きく影響を受けるため、その際は活性炭の再生強化や粉末活性炭の注入により対応に努めている。
13	普及啓発事業等への参加者数 (人)	水道水の普及啓発及びPR活動の 状況	19,097	17,746	20,336	20,581	58	218	2,055	10,693	20,000	○ 対前年度では増となっているものの、一部のイベントへの出展とりやめや、イベントでの試飲の自粛、学校行事等の廃止・縮小等による施設見学者の減少などにより、コロナ禍以前の数字までの回復には至っていない。
14	企業局ホームページのアクセス数 (月平均：件)	広報・情報発信の強化【上工水】	15,755	11,446	9,498	16,091	7,501	12,474	17,711	21,976	15,000	◎ 出先機関を含む各所属において積極的に情報発信を行ったことにより、6月に過去最高である40,298回のアクセスを記録する等、順調に実績を達成した。
15	水道水の安全性のPR回数 (回)	水道水の安全性についての情報 発信	25	25	26	23	12	12	21	33	25	○ イベントへの出展見直しにより、イベントへ出展回数は減少したものの、親子水道教室の再開や、年1回だったPFASの検査を月1回（2023.5～）とするなど、ホームページ等を通して定期的な水質情報等を発信に努めた結果、目標を達成するに至った。

【基本目標4】 環境保全への貢献

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)	評価
16	浄水場屋外灯のLED導入率 (%)	省エネ機器の導入状況【上工水】	36.4	36.4	54.5	63.6	81.8	90.9	100	100	100	◎ R4年度に目標達成
17	中央監視室照明のLED導入率 (%)	省エネ機器の導入状況【上工水】	27.3	27.3	90.9	100	100	100	100	100	100	◎ R1年度に目標達成
18	エネルギー消費原単位 (kWh/千㎡)	水処理コスト・環境影響負荷の 低減 ※H25：437	419 4.1%削減	415 5.0%削減	418 4.3%削減	414 5.3%削減	415 5.0%削減	416 4.8%削減	410 6.2%削減	402 8.0%削減	H25比毎年 0.1%削減	◎ 鹿島浄水場田の森配水場への送水量増加に伴うポンプの運転台数の増など原単位悪化要因はあったものの目標を達成している。
		上水目標 (kWh/千㎡)	435.7	435.3	434.8	434.4	434.0	433.5	433.1	432.6		

2 工業用水道事業

(1) 数値目標

【基本目標1】 計画的かつ効率的な経営の推進

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)	評価
1	総収益対総費用率 (%)	費用が収益によってどの程度賄われているかを示す	147.6	134.7	133.3	128.4	129.2	119.6	120.4	125.0	毎年100以上	◎ 総収益が総費用を上回っており、収益で費用を賄えている状況にある。今後も引き続き純利益を確保できる見通しであるため、目標値は達成できると見込まれる。
2	営業収益対営業費用比率 (%)	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示す	127.1	123.6	121.8	118.2	118.2	117.4	110.4	112.7	毎年100以上	◎ 維持管理費や職員給与費などの営業費用が、料金収入で賄えている状況にある。今後も同様の状況が続く見通しであるため、目標値は達成できると見込まれる。
3	借入金残高 (億円)	借入金残高 (負債) の状況	498	475	459	437	404	380	363	347	428	◎ 資金状況をみながら、新規借入金の抑制に努めていることから、年々減少している。引き続き、借入金の抑制に努めることにより、目標値は達成できると見込まれる。
4	契約水量 (万m ³ /日)	契約水量の増	100	101	102	102	102	102	102	102	109	○ 近年は横ばいで推移。企業における業態の変更や節水技術の進展により、大幅な契約水量増は見込みにくい状況。なお、県南西工水では、圏央道インターパークつくばみらいなど、新しい工業団地の造成により、一定の新規需要が見込まれる。

【基本目標2】 安定した水の供給

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)	評価
5	施設の改築・更新の進捗状況 (%) [事業費ベース] ※再掲	機能維持に関する建設改良投資の進捗状況 (施設更新事業) 【上工水】	27.3 (30.6)	35.7	43.9	53.7	54.6	57.9	63.7	70.7	100	○ (再掲) 水道の広域化 (施設の最適化) の検討に伴い新治浄水場の更新は先送りしているが、他の浄水場については計画に基づき事業が進んでいる。
6	建築物 (取水ポンプ棟、送配水ポンプ棟など) の耐震補強の進捗状況 (%) [事業費ベース] ※再掲	S56以前に整備された建築建屋 (常時無人) の耐震化の進捗状況 (第2次耐震化計画) 【上工水】	13.1	20.4	27.3	30.1	32.6	35.0	※100	※100	100	◎ (再掲) 耐震補強計画の見直し等により工事費の低減を図っており、事業費ベースの進捗率は低いものの、令和3年度までに対象9棟の耐震化が完了できた。
7	管路の漏水事故発生率 (件/100km) ※再掲	管路更新や適切な機能保全工事による安定した水の供給 【上工水】	1.2	1.1	0.9	0.5	1.3	1.1	0.8	0.9	0.5	○ (再掲) 小規模な漏水が主であり、老朽化が進む中で発生率は横ばい程度に抑えられている。引き続き、管路の更新等により漏水事故発生抑制を図る。
8	管路耐震化率 (%) [管路延長ベース]	管路耐震化の進捗状況	39.4	39.9	41.9	43.7	43.9	45.7	46.1	46.4	59.7	△ 整備費用の高騰や布設位置の見直しなどにより、計画に対する進捗率の伸びは鈍いものの、着実に耐震化が図られている。
		策定時 (H25) 管路総延長 (km) 563.8 整備済み (km) 193.8 進捗率 (%) 34.4	563.8 222.2 39.4	563.8 225.0 39.9	563.8 235.9 41.9	563.8 246.1 43.7	563.8 247.5 43.9	563.8 257.5 45.7	563.8 259.9 46.1	563.8 261.8 46.4	R5計画値 563.8 324.9 57.7	△ 同上

【基本目標3】 利用者サービスと情報発信の充実

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)	評価	
9	低濁度水の供給 月平均濁度 15度以下	顧客満足度の向上	8.4度	8.2度	7.5度	8.5度	8.7度	8.7度	8.4度	7.9度	10度以下	◎	※鹿島I期の工水配水濁度を採用している理由：工水専用取水であり濁度が一番高い。 費用対効果を念頭にほぼ均等な濁度管理に努めている。
10	企業局ホームページのアクセス数（月平均：件） ※再掲	広報・情報発信の強化【上工水】	15,755	11,446	9,498	16,091	7,501	12,474	17,711	21,976	15,000	◎	出先機関を含む各所属において積極的に情報発信を行ったことにより、6月に過去最高である40,298回のアクセスを記録する等、順調に実績を達成した。

【基本目標4】 環境保全への貢献

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)	評価	
11	浄水場屋外灯のLED導入率（%） ※再掲	省エネ機器の導入状況【上工水】	36.4	36.4	54.5	63.6	81.8	90.9	100	100	100	◎	R4年度に目標達成
12	中央監視室照明のLED導入率（%） ※再掲	省エネ機器の導入状況【上工水】	27.3	27.3	90.9	100	100	100	100	100	100	◎	R1年度に目標達成
13	エネルギー消費原単位 (kWh/千㎡)	水処理コスト・環境影響負荷の低減 ※H25：209	209 増減なし	211 1.0%増	211 1.0%増	209 増減なし	213 1.9%増	211 1.0%増	215 2.9%増	218 4.3%増	H25比毎年 0.1%削減	△	鰯川浄水場の給水量減少による運転効率の低下や、那珂川浄水場において常陸那珂工業団地の新規企業対応のため配水圧力を増圧したことから原単位が悪化した。
		工水目標 (kWh/千㎡)	208.4	208.2	208.0	207.7	207.5	207.3	207.1	206.9			

3 地域振興事業

(1) 数値目標

【基本目標1】 計画的かつ効率的な経営の推進

No.	項目	項目選定の理由等	改定時 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)	評価
1	入居者の確保（社） [格納庫事業]	賃貸料収入の確保	5	5	5	5	4	4	—	—	5	— 民間事業者への売却により、令和3年度末をもって事業終了。
2	借入金残高（億円） [格納庫事業]	借入金残高（負債）の状況	1	1	1	0	0	0	—	—	(R2) 0	— 令和元年度完済
3	阿見東部工業団地立地率 （%） [土地造成事業]	経営の安定	93	100	100	100	100	100	100	100	100	◎ 完了（17社立地） ただし、2社については、事業用定期借地権により立地。
4	江戸崎工業団地立地率 （%） [土地造成事業]	経営の安定	91	100	100	100	100	100	100	100	100	◎ 未造成区画（第5号画地）について、令和4年1月24日に（株）SHOEIと土地売買契約を締結し、江戸崎工業団地は完売（8社立地）となった。
5	つくば明野北部工業団地 立地率（%） [土地造成事業]	経営の安定	100	100	100	100	100	100	100	100	100	◎ 完了（1社立地）